

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19330139

研究課題名（和文） 集団拘束的行動の適応的基盤

研究課題名（英文） Adaptive foundations of the group-bounded behavior

研究代表者

山岸俊男（YAMAGISHI TOSHIO）

北海道大学文学研究科・教授

研究者番号：80158089

研究代表者の専門分野：社会心理学

科研費の分科・細目：心理学・社会心理学

キーワード：協力行動、集団間葛藤、集団内行動、集団間行動、一般交換、適応、進化、文化

#### 1. 研究計画の概要

人間の行動は多くの場合、集団を単位としてなされる。人間行動のこの集団拘束性は、一方では集団内での相互協力を生み出すが、同時に、集団間に葛藤や攻撃行動を生み出す。本研究は、(1)「内集団ひいきと内集団信頼に対する集団との同一化の影響」と、(2)「集団間攻撃行動の適応的基盤」という二つの主要な研究テーマを中心に置き、社会的存在としての人間の特徴である社会行動の“集団拘束性”分析することで、その内容を明らかにすると同時に、その適応的基盤を解明し、研究成果を我々の社会での制度設計に生かす可能性を追究することを目的としている。

#### 2. 研究の進捗状況

研究は計画通り進行している。(1)「内集団ひいきと内集団信頼に対する集団との同一化の影響」に関しては、内集団への信頼を生み出す心理メカニズムとして、集団内部において協力的な人間であるという評判を維持するための「評判管理」メカニズムが想定されることを、理論的かつ実証的に明らかにしている。具体的には、一連の最小条件集団状況における実験ゲーム研究を通して、自集団成員に対する信頼が他集団の成員に対する信頼に比べて高まる「内集団信頼」が生じるのは、信頼する相手が自集団ないし他集団の相手であるという事実のみでは不十分であり、相手が集団所属性情報を用いて同様に自分に対して内集団ひいき的に行動するであろうという期待が成立している必要があることを明らかにした。また、内集団成員への信頼が、無条件で生

じるのではなく、他成員からの一般互恵的利他行動への期待によって支えられていることを明らかにしている。(2)「集団間攻撃行動の適応的基盤」に関しては、これまでの研究で集団間攻撃の背後にある心理メカニズムとして想定されてきた「連合形成のための心理メカニズム」が、実は他集団からの搾取を事前に予防する機能を主として担っていることを、男性のみの集団と女性のみを集団を用いた最小条件集団実験を通して明らかにしている。計16篇の学術論文（その多くは海外研究誌に掲載）と、28篇の国内外の学会での研究報告論文で報告されたこうした研究成果は、本研究の主要な目的の達成に向けて、順調な進展を見せていることを示している。

#### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

「内集団ひいきと内集団信頼に対する集団との同一化の影響」に関する研究は、順調に進展し、集団内での評判管理メカニズムの解明が進んでいる。「集団間攻撃行動の適応的基盤」に関しては、連合形成メカニズムの適応的基盤が予防的な側面にあることを明らかにする成果が得られている一方、集団間攻撃行動を測定するための新たな実験法の開発で、多少の遅れが出ている。

#### 4. 今後の研究の推進方策

これまでに得られた知見を確認するための研究を進めるとともに、主要研究誌に論文を発表し、国内外の学会で研究成果を公表する。

#### 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

〔雑誌論文〕(計 16 件)

- 1) N. Mifune, H. Hashimoto & T. Yamagishi [2010] Altruism toward in-group members as a reputation mechanism. *Evolution and Human Behavior*, 31, 109-117 査読有.
- 2) T. Yamagishi & N. Mifune [2009] Social exchange and solidarity. *Evolution and Human Behavior*, 30(4), 229-237 査読有.
- 3) T. Yamagishi 他 5 名 [2009] The private rejection of unfair offers and emotional commitment. *Proceedings of the National Academy of Science USA*, 106(28), 11520-11523 査読有.
- 4) M. Foddy, M. Platow & T. Yamagishi [2009] Group-based trust in strangers. *Psychological Science*, 20(4), 419-422 査読有.
- 5) T. Yamagishi 他 3 名 [2008] Exchanges of group-based favors. *Asian Journal of Social Psychology*, 11(3), 196-207 査読有.

〔学会発表〕(計 28 件)

- 1) N. Mifune, H. Hashimoto & T. Yamagishi [2009] Peers are watching you: Eyes promote altruism toward in-group members. Paper presented at the 21st Annual Meeting of the Human Behavior and Evolution Society, California State University, Fullerton, USA, May 27-31.
- 2) T. Yamagishi [2009; 基調講演] In-group cooperation as a reputation mechanism. International Association for Conflict Management Conference, Hyatt Regency Kyoto, Kyoto, June 16.
- 3) T. Yamagishi [2009; 招待講演] In-group cooperation and reputational psychology. International Conference on Evolution of Cooperation: Models and Theories, Laxenburg, Austria, September 16.
- 4) N. Mifune & T. Yamagishi [2008] Sex differences in the in-group bias with minimal groups. Paper presented at XXIX ICP, ICCBerlin, Germany, July 22.
- 5) N. Mifune J. Liu & T. Yamagishi [2007] Ingroup favoritism as generalized exchange of favor. Comparison of Japanese and New Zealanders. Paper presented at the Asian Association of Social Psychology Conference 2007, Pacific Stella Hotel, Kota Kinabalu, Malaysia, July 27.